

特 記 仕 様 書

(N S 形)

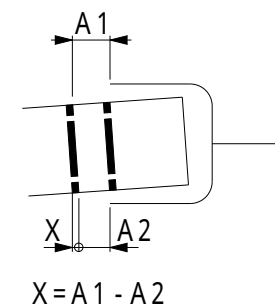
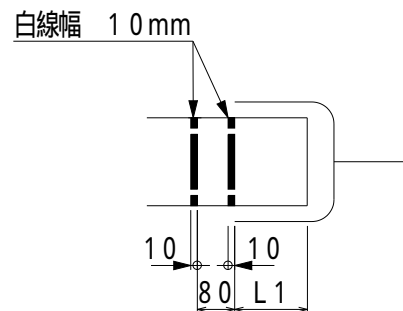
第1章 配管工事

1. 本工事に使用する材料は、すべて J I S 規格または日本水道協会規格品で製品はすべてその証たる打刻（または押捺）があること。その検査の証が必要なものは次のとおりである。
 - 1) 鋳鉄管および異形管
 - 2) 水道用亜鉛メッキ鋼管および継手類
 - 3) 硬質塩化ビニル管および異形管
 - 4) 仕 切 弁
 - 5) 空 気 弁
 - 6) 消 火 栓
2. 材料を現場に搬入した時点で、監督職員の確認を受けること。
3. 上記確認完了後、搬入した資材を交換してはならない。
4. 本工事埋設にあたり床掘完了後、監督職員の確認を受けること。
5. 管の接合に当たっては、継手部ボルトの片締めにならないよう充分丁寧に施工のこと。
6. 管の埋設深さは、指定天端土被りとする。
7. 路面復旧は、別途指示するとおりとする。
8. 工事施工中は交通安全標識、夜間安全灯等事故のないよう留意すること。
9. 通水 2 年以内には工事の不手際、材料の不良等により生ずる事故は、一切請負者に於いて無償修理のこと。
10. 配管工事接合完了時においては、通水圧テストを行うものとする。その仕様は次のとおりとする。

試験圧力	0.74MPa (7.5kgf/cm ²)	2 時間後の圧力	0.70MPa (7.1kgf/cm ²)
------	-----------------------------------	----------	-----------------------------------
11. ダクタイル鋳鉄管（N S 形）接合
 - 1) 接合に先立ち、挿し口端から 5 0 c m の部分の外面及び受け口の内面押輪及びゴム輪等に付着している油、砂、その他の異物は完全に取り除くこと。
 - 2) ロックリング心出し用ゴムを清掃し、受け口の所定の位置にしっかりと張り付かせる。ゴム輪装着後、プラスチックハンマでゴム輪を受口内面になじませるようにたたくこと。
 - 3) ロックリングを清掃して、絞り器具でロックリングを絞った状態を保ちながら、溝内でロックリングの心出し用ゴムの上に正しくセットする。分割部の位置はどこでも良い。
 - 4) T 形継手の接合の要領と同様に、ゴム輪を受け口内面の所定の位置に装着する。このとき、ゴム輪が N S 形用のものであることを表示マークで必ず確認すること。
 - 5) ダクタイル管継手滑剤をゴム輪の内面及び挿し口外面のテーブ部から白線までの範囲にむらなく塗布する。次に、ジャッキ等で操作し、ゆっくり挿し口を受け口に挿入する。その場合、挿し口外面に表示してある 2 本の白線のうち、管端よりの白線の幅の中に受け口端がくるように合わせること。（挿入の際、バックホウなどの強力な機械で管を挿入しないこと。）

挿し口白線表示位置

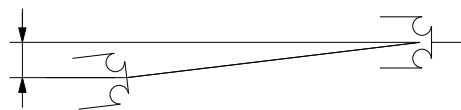
呼び径 (mm)	挿し口 (L1)	摘 要
7 5	1 6 5	
1 0 0	1 7 0	
1 5 0	1 9 5	
2 0 0	1 9 5	
2 5 0	1 9 5	
3 0 0	2 3 0	
3 5 0	2 4 0	



- 6) ゴム輪の位置確認のため、受け口と挿し口の隙間に薄板ゲージを差込み、その入り込み量が他の部分に比べて異常に大きい場合は、継手を解体して点検すること。
- 7) 水圧試験時に継手より漏水した場合は、全部取り除き十分清掃してから接合のやり直しをすること。
- 8) やむを得ず曲げ配管する場合は、まず管をまっすぐに接合し、接合が正常であることを確認後、継手を許容曲げ角度の1/2範囲内でゆっくり曲げること。
継ぎ輪の許容曲げ角度は、片側受口についても直管と同じである。

許容曲げ角度と偏位

呼び径 (mm)	許容曲げ角度	A 寸法の差 X (mm)	管 1 本当りに許容される偏位 (cm)
7 5	4°	6	2.8 (4 m 管)
1 0 0	4°	8	2.8 (4 m 管)
1 5 0	4°	12	3.5 (5 m 管)
2 0 0	4°	15	3.5 (5 m 管)
2 5 0	4°	19	3.5 (5 m 管)
3 0 0	3°	17	3.1 (6 m 管)
3 5 0	3°	20	3.1 (6 m 管)



- 9) 切管には必ず“1種管”を用い、所定位置に“ケガキ”を入れ、専用の溝切り切断機で管の切断と挿し口加工を行うこと。挿し口加工した部分には、ダクタイル鉄管補修用塗料で塗装すること。挿し口には、白線2本を表示すること。(表示位置は第5)による)
- 10) 接合作業は日本ダクタイル鉄管協会発行の接合形式に応じた「接合要領書」により施工するものとする。
12. 既設管の撤去
- 1) 既設管の撤去に当っては、埋設位置、管種、管径等を確認する。なお、管を撤去し再使用する場合は、継手の取り外しを行い、管に損傷を与えないよう慎重に撤去する。
- 2) 既設管等の建設副産物の処理については、「資源の有効な利用の促進に関する法律」、「建設副産物適正処理推進要綱」を遵守して、適正な処理、処分及び再資源としての活用を図るとともに、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」等を遵守して請負者の責任において適正に処分し、不法投棄等第三者に損害を与えないようにすること。

第2章 資 材

資材は、下表の規格品とする。但し、下表外の資材は監督職員の承認を得ること。

品 目	規 格 番 号
ダクタイル鋳鉄管	JWWA G113
ダクタイル鋳鉄異形管	JWWA G114
ダクタイル鋳鉄管及び異形管接合部品	JWWA G113,G114
塗覆装鋼管	JWWA G117
塗覆装鋼管の異形管	JWWA G118
ステンレス鋼鋼管	JWWA G115
ステンレス鋼鋼管継手	JWWA G116
波状ステンレス鋼管	JWWA G119
硬質塩化ビニルライニング鋼管	JWWA K116
耐熱性硬質塩化ビニルライニング鋼管	JWWA K140
ポリエチレン粉体ライニング鋼管	JWWA K132
エポキシ樹脂コーティング管継手	JWWA K117

ライニング鋼管用管端防食型継手	JWWA K150
ゴム輪形硬質塩化ビニル管	JWWA K127
ゴム輪形硬質塩化ビニル管継手	JWWA K128
ゴム輪形耐衝撃性硬質塩化ビニル管	JWWA K129
ゴム輪形耐衝撃性硬質塩化ビニル管継手	JWWA K130
配水用ポリエチレン管	JWWA K144
配水用ポリエチレン管継手	JWWA K145
硬質塩化ビニル管	JIS K 6742
硬質塩化ビニル管継手	JIS K 6743
ポリエチレン二層管	JIS K 6762
ポリエチレン管金属継手	JWWA B 116
仕切弁	JIS B 2062
空気弁	JIS B 2063
バタフライ弁	JIS B 2064
ソフトシール仕切弁	JWWA B120
地下式消火栓	JWWA B103
サドル付分水栓	JWWA B117
止水栓	JWWA B108
接合用、組立用ボルト及びナット類	水道用品規格 JIS,JWWA
水密保持用ゴム	水道用品規格 JIS,JWWA